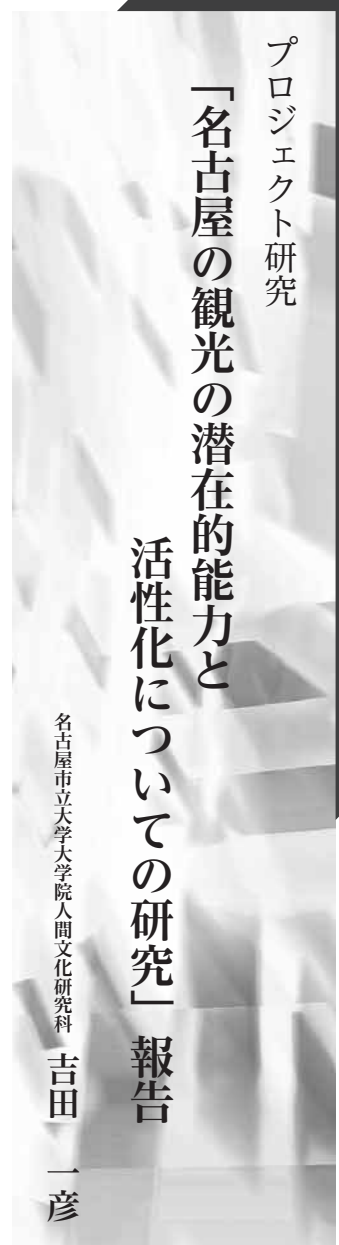


プロジェクト研究

「名古屋の観光の潜在的能力と

活性化についての研究」報告

名古屋市立大学大学院人間文化研究科 吉田 一彦



二〇一五年度、私たちは人間文化研究所プロジェクト研究「名古屋の観光の潜在的能力と活性化についての研究」を実施して、名古屋の観光の問題について引き続き考究した。研究代表者は吉田一彦、研究分担者は成田徹男教授、土屋有里子准教授である。このプロジェクト研究は、人文社会学部のオムニバス講義「名古屋と観光」と連動させて進めている。二〇一五年度の「名古屋と観光」の講義は、二〇一四年度の講義内容を一部変更して次のようなプログラムで実施した。

名古屋の歴史二
名古屋の歴史の町並とまちづくり
名古屋の歴史のことば一

吉田一彦
吉田一彦
溝口正人
成田徹男

同二
名古屋と文学一
同二
名古屋の芸能一
同二
名古屋の観光・国際的観光の中の
名古屋
名古屋の観光と博物館
名古屋と文化財一
同二
名古屋における観光
まちづくりの課題
総合討論

成田徹男
土屋有里子
土屋有里子
阪井芳貴
阪井芳貴
市川哲
神谷浩
朝日美砂子
朝日美砂子
林浩一郎
講義担当者

本年度は新たに着任した市川哲准教授に国際観光学の視座からの、また名古屋市博物館神谷浩副館長に浮世絵研究の視座からの講義を担当していただいた。この講義は本年度も授業公開の科目として市民の方々に聴講していただいております、名古屋港で観光ボランティア

の活動をしている方、名古屋百人一首作成の活動をしている方など、多彩な市民の方々と有益な意見交換をすることができた。

プロジェクト研究では、成田教授が大学院生、学部学生とともに名古屋の「言語景観」について調査、分析し、「案内表示の多言語化の実態と問題点についての研究」を進めた。具体的には、名古屋城・熱田神宮・金山駅について案内表示の実態調査を行ない、語用論的観点や言語景観論の視点から問題点を分析、検討した。多言語化は、かなりばらつきがあり、表示対象や表示方法について不統一な点があることが明らかとなった。なお、大学院博士後期課程学生の研究経費については、「学研究遂行協力制度（RA）」を活用させていただいた。

土屋准教授は、人文社会学部土

屋ゼミで「名古屋市御朱印マップ」作成に取り組み、二〇一五年度は名古屋市全一六区の神社について、基礎調査に着手して御朱印の有無や各神社の歴史、特徴などについてまとめた。また、大須周辺の複数の神社について実地調査を行ない、あわせて現地の周辺情報を収集した。こうした基礎作業の成果に立って、名古屋市を訪れた観光客が、手にとつて御朱印巡りができるような、移動にも楽しさを感じるような「名古屋市御朱印マップ」を作成することを計画している。

吉田一彦は、山田明名誉教授の勉強会を引き継いで、名古屋市役所の方などともに「名市大で名古屋の観光を考える勉強会」を七月一二日、十一月一日、一月九日に実施した。幹事の名古屋市市民経済局文化推進室の藤井章氏（名古屋市立大学人文社会学部卒業生）に大変お世話になったことに感謝するとともに、いつも新たなアイデアを提案してくれる同室の吉田祐治氏、JTBの堀端将司氏（名古屋市立大学人文社会学部卒業生）に感謝する次第である。今年度は土屋有里子、三浦哲司、市川哲の三先生が参加し、また名古屋芸術大学の梶田美香先生（人間文化

研究科博士後期課程修了生）や人間文化研究科大学院生の吉原裕子さんなどが参加してにぎやかな勉強会を実施することができた。

一月の勉強会では、実地見聞ということで、「やっとかめ文化祭二〇一五」に参加した。この日は大須商店街ふれあい広場で、常磐津千寿太夫、常磐津祐二郎、岸澤満佐志による常磐津の「まちなか披露」を見学した。私はこれまで常磐津には歌舞伎の舞台などで接してきたが、野外のまちなか披露というのは初めての体験で、大須の町の賑わいの中で拝聴する常磐津は、また別の趣があって面白かった。



やっとかめ文化祭・常磐津のまちなか披露

私たちは、続いて、西別院へと移動して「まちなか寺子屋（入門「なごや」学）」に参加し、高北幸矢先生（清須市はるひ美術館館長）の「殿様が愛したボタニカルアート」を拝聴した。「やっとかめ文化祭」は、面白い企画がいろいろと準備されていて、名古屋の文化や風土を楽しみながら理解することができる。その後、私は、冒険的な企画である「LEDキャンドル能」の狂言「入間川」、能「俊寛」を観劇し、LED照明を用いた斬新な試みを体験することができた。

また、本年度は、教養教育授業「地域連携参加型学習」の吉田班



有松の町並み

のテーマを「有松の文化とまちづくり」にしたので、一年生の学生とともにしばしば有松の町を訪れた。有松の町並みは、二〇一六年度に「重要伝統的建造物群保存地区」に選定される方向で進んでいる。私は、一年生学生の感性から発される意見に触れながら、有松の町の絞り染め、東海道の町並み、山車、祭などについて考え、歴史文化とまちづくりについて考究を深めた。名古屋の観光にとって、今後、有松の観光の活性化は大きなテーマの一つになるものと思われる。